

首里城扁額製作検討委員会

第 2 回 検討委員会

2021年12月 21日（火） 14:00-17:00

【資料 2】 新たな知見による情報整理と課題（案）

- 2-1. 尚家文書による情報整理
- 2-2. 扁額仕様の設定に伴う課題

かんぼうよねんこういんはちがつぎょひつごひょうぐならびにおんがくおしたてにつき

※参考：尚家文書360『咸豊四年甲寅八月 御筆御表具并御額仕立日記』の読み下し文抜粋

- ①御額彫方并縁彫すけ至而六ヶ敷
- ②御額字彫様者、乾隆五拾弍年御仕立之御額御手本ニ被仰付、ふちの彫様并絵様之儀ハ、康熙之御額御手本ニ被仰付、御額寸法ハ道光拾八年御仕立之御額之通被仰付度旨
- ③一御額台壺面ノ但、鏡高三尺四寸七分、横壺丈弍寸四分、板ア壺寸檜木調、縁高四尺七寸七分、横壺丈壺尺五寸四分檜木調、且鏡板合口壺所ニ付木かせかい六ツ完、麦漆ニ而付合
- ④一向龍壺頭ノ但、長壺尺弍寸、横壺尺壺寸八分、高六寸五分、弍ツ合ニ而檜木調
- ⑤一同廿九日、御額惣程来枚原紙二次調、外四方五分完黒へり、鏡内四方五分完青へり、壺寸五分完赤へり、五分完黒へり彩分ヶ、縁雲龍之絵様并くうちんかあ書調方相済候
- ⑥御額塗方ニ着布用御先例稀桐板齊遣羽被仰付置候處、御物御有合不申候間、宮古拾七舛白細上布ニ繰替召遣候而
- ⑦縁惣閉合申付相済候付、早速銅かせかい四匁、四角江裏より相調させ、貝摺主取江こくそ詰仕、鏡布下着壺へん地相始候事
- ⑧附、鏡黄色塗、御字金薄磨、御印朱塗、鏡四方青ぬりヒ五分、朱塗ヒ壺寸五分、縁雲龍彫すかニ而金薄磨、縁側四方真ぬり、御額後墨ほくり帰シ塗調候也

2-1.尚家文書による情報整理

資料2

前回製作時の扁額仕様と、尚家文書から得られた扁額（「同文式化」）仕様とを比較すると、全体寸法はおおむね同等であるものの、文字の加飾、鏡（地板）の色、額縁の文様・加飾などについては、かなり異なっていることがわかった。

	前回製作仕様	尚家文書による「同文式化」仕様	番号
全体寸法	全体長さ：3,758mm 全体高さ：1,470mm 鏡：3,212mm×924mm、厚さ40mm	全体長さ：3,497mm 全体高さ：1,445mm 鏡：3,103mm×1,052mm、厚さ30mm （道光18年の通り）	③
木工	鏡：木曾ヒノキ材 額縁：木曾ヒノキ材 接合：樹脂接着剤、補強吸付棧	鏡：ヒノキ材 額縁：イヌマキ材 龍彫刻：ヒノキ材 接合：麦漆、木かすがい（合口1つにつき六つ）	③、④
文字	肉合彫り（陽刻）	不明（乾隆52年を手本）	②
鏡（地板）	塗り：朱漆塗 御印：金粉塗 文字：金箔貼り	塗り：黄色塗、四周を青塗・朱塗 御印：朱漆 文字：金薄磨	⑤、⑧
額縁	塗り：黒漆塗 文様：宝珠文、雲龍文、七宝繫 加飾：箔絵（彫刻無し） 接合：樹脂系接着剤	（康熙を手本） 文様：雲龍文、七宝繫（くうちんかあ） 加飾：彫刻、金薄磨 接合：銅かすがい、刻苧詰	①、② ⑤、⑦ ⑧
髹漆下地	刻苧詰、布着（麻布）、三辺地	こくそ詰、布着（稀桐板齊（代用として宮古白細上布））、壺辺地より始める（三辺地）	⑥、⑦
側面・裏面	側面：黒漆塗 裏面：搔合塗（黒色）	側面：黒漆塗（真ぬり） 裏面：墨ほくり帰し塗	⑧
その他	—	向龍壺頭／長壺尺貳寸（364mm）、 横壺尺壺寸八分（358mm）、高六寸五分（197mm）	④

2-2.扁額仕様の設定に伴う課題（案）

資料2

尚家文書から得られた情報に基づき、扁額仕様を設定するにあたり、以下のような課題が生じる。

	尚家文書360「同文式化」仕様	課題
全体 寸法	全体長さ：3,497mm 全体高さ：1,445mm 鏡：3,103mm×1,052mm、厚さ 30mm	・文書情報に基づき、額縁と鏡（地板）の寸法の見直しと、木地構造の検討を行う必要がある。
木工	鏡：ヒノキ材 額縁：イヌマキ材 龍彫刻：ヒノキ材 接合：麦漆、木かすがい	・文書情報に基づき、木材を調達する必要がある。できるだけ県産材の活用に努め、かつそれで賄えない場合の方法も検討する必要がある。
文字	(情報無し)	・文字について、陽刻か陰刻かの判断が必要である。また、その方法を具体化するため、扁額事例の情報収集を行う必要がある。
鏡 (地板)	塗り：黄色塗、四周を青塗・朱塗 御印：朱漆 文字：金薄磨	・鏡（地板）の黄色塗・四周の青塗・朱塗の色合いの検討および、鏡が黄色で文字が金薄磨のときの見栄えを確認する必要がある。 ・黄色塗および金薄磨の手法について、検討する必要がある。
額縁	文様：雲龍文、七宝繫 加飾：彫刻、金薄磨 接合：銅かすがい、刻苧詰 向龍壺頭／但、長壺尺貳寸、横壺尺壺寸八分、高六寸五分	・雲龍文および七宝繫文の図柄と配置、彫刻方法を、具体化するため、事例調査を行う必要がある。 ・文書にある龍の寸法等の取扱い・解釈について、検討する必要がある。
髹漆下地造り	こくそ詰、布着（稀桐板齊（代用として宮古白細上布）、壺辺地より始める（三辺地）	・下地造り用の布の調達をどうするか、検討する必要がある。
側面・裏面	側面：黒漆塗 裏面：墨ほくり帰し塗	・裏面の“墨ほくり帰し塗”をどう解釈するか、検討する必要がある。